

令和5年度 事務事業評価シート（1）

[令和4年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	こころの健康づくり推進事業			事業番号	011-206
担当部署名	健康福祉	局	健康	部	精神保健課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(5) 障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現	
		寄与するKPI	有	取組の方向性	①相談支援体制の充実・強化			
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	指標名	—			
		寄与するKPI	無	現状値	—	目標値	—	

2	関連計画				
3	事業開始年度	昭和 49 年度	点検対象年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律			

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁、こころの健康センター、各区			
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	こころの健康に悩みを持つ市民及びその家族等	対象数	単位	
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	精神疾患やその治療についての相談指導に応じるとともに、市民のこころの健康保持・増進や精神疾患に関する相談等を実施することでメンタルヘルスの維持向上を図る。また、精神障害者の社会復帰・社会参加の促進を目的とする。			
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターにおいて精神保健福祉士や保健師が相談に応じ、必要に応じて関係機関の紹介や連絡調整を行う。 ・相談内容・・・こころの健康やアルコール問題等に関する医療の受診や社会復帰等について ・精神科医師による定例の精神保健福祉相談を実施（予約制） 			
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)				
10	公民連携・協働事業				

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位	実績		目標	目標 点検対象年度
	精神科医療に関する相談延件数	件	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度
			目標値	—	—	—
			実績値	12,066	9,156	—
達成率	—	—	—	—		
	当該指標を選定した理由	こころの健康維持、社会復帰のためには、適切な医療につながる事が重要であるため。				
	目標値の設定根拠・算出方法	市民等からの相談対応延件数のうち精神科医療に関する相談延件数であり、目標の設定にはなじまない。				
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標	
	精神保健福祉相談延件数	件	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			目標値	—	—	—
			実績値	28,519	24,280	—
達成率	—	—	—	—		
	当該指標を選定した理由	あらゆるこころの健康に関する相談に対応し、必要に応じて適切な支援につなげることができる機会となるため。				
	目標値の設定根拠・算出方法	市民等からのこころの健康に関する相談対応延件数であり、目標の設定にはなじまない。				

令和5年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	こころの健康づくり推進事業	事業番号	011-206
-------	---------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度
	決算		決算		当初予算	決算	当初予算
事業費 (a)	12,453		14,560		18,133	17,188	17,979
13 財源内訳	国支出金				0		0
	府支出金				0		0
	市債				0		0
	その他 ()				0		0
	受益者負担金(使用料、手数料等)				0		0
	一般財源	12,453		14,560		18,133	17,188
14 人件費 (b)	134,480		133,250		132,840	138,744	136,476
15 年間経費 (c)=(a)+(b)	146,933		147,810		150,973	155,932	154,455

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費		うち一般財源	項目	年度	事業費		うち一般財源
		R4	R5				R4	R5	
16 事業費内訳	医師報酬	R4	決算 5,684	5,684	消耗品費	R4	決算 541	541	
		R5	予算 7,560	7,560		R5	予算 565	565	
	会計年度任用職員報酬	R4	決算 8,374	8,374	印刷製本費	R4	決算 0	0	
		R5	予算 6,891	6,891		R5	予算 60	60	
	期末手当 (会計年度任用職員)	R4	決算 1,593	1,593	精神障害者地域交流運動会負担金	R4	決算 0	0	
		R5	予算 1,441	1,441		R5	予算 216	216	
謝礼金	R4	決算 251	251	精神保健福祉セミナー開催負担金	R4	決算 173	173		
	R5	予算 277	277		R5	予算 138	138		
費用弁償 (通勤費)	R4	決算 563	563	その他	R4	決算 9	9		
	R5	予算 598	598		R5	予算 233	233		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和3年度	令和4年度
① 精神保健福祉相談員による相談対応	件	28,519	24,280
② 上記①にかかる年間経費	千円	131,200	131,200
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	4,600	5,404

備考 (算出についての説明等) 精神保健福祉相談員による相談件数に対する人件費を計上

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18 各区の保健センターにおいて、こころの健康に関する相談等を受けており、精神保健福祉士や保健師が医療の受診や社会復帰、アルコール関連問題に関する相談に個別に応じ、必要に応じて関係機関の紹介や連絡調整を行っている。令和4年度の相談延件数は24,280件であり昨年度より減少傾向にあるが、対応が複数回に及び精神科医療に関する相談については全体の約4割弱を占めている。専門職である精神保健福祉士や保健師が相談を受けて対応し、また精神科医師による相談を活用することで、未治療者や治療中断者に対するアプローチなど、専門性の高い医療相談対応を行っており、有効性は高いと考える。

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19 ストレスの多い現代社会において、思春期の不登校、摂食障害、壮年期のうつ病、職場不適應、アルコール依存症、老年期の認知症など、こころの健康はあらゆる年代で深刻な問題となっている。また、昨今の地震や豪雨などの自然災害による被害、新型コロナウイルス感染症による外出抑制など、不安やストレスを抱えての生活が長期化することにより、心の不調をきたす場合があり、心のケアの必要性が高まっている。

本市では、長年、精神保健福祉士を常勤職員として配置してきた。その中で、知識や経験が積み重ねられており、多岐にわたる相談内容に対して、精神科医師や保健師と共に多角的な見地から有効な支援を実施している。また、家庭訪問や受診同伴等のアウトリーチ支援や危機介入を積極的な支援を行うことで、必要な医療につなぎ、精神障害者の社会復帰を促進している。加えて精神科医療は対象範囲を広げており、その中で公的機関には医療分野、福祉分野共に処遇困難事例への関わりが望まれ、当該事業を担当する職員に求められる水準は高くなっている。これに対し、専門機関であるこころの健康センターは個別事例への技術支援や研修を実施し、職員の技術的水準の向上を図っている。以上のことから、堺市基本計画2025の取組の方向性「相談支援体制の充実・強化」に寄与している。